



たかはるちょう

第36号

平成23年6月定例会（第4回）
7月臨時会（第5回）

議会だより

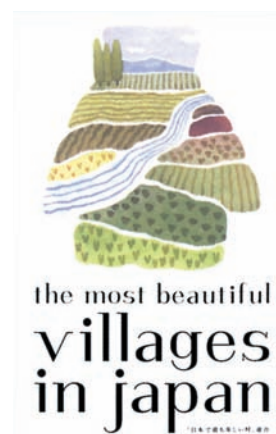


高原町議会の会議録(平成23年5月議会以降)が高原町ホームページに平成23年9月1日(予定)より掲載されます。どうぞご覧ください。ホームページアドレスは 

- 一般質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2～P 3
- 第4回定例会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3～P 4
- 審議結果報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- あさひの里紹介、編集後記・・・・・・・・・・ P 6

■発行／高原町議会
☎889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899番地 ☎(0984)42-2111
■発行日 平成23年8月16日

■編集／議会だより編集委員会



一般質問

民生委員・児童委員・農業委員の報酬改定を



温谷 文雄議員

(問) 民生委員・児童委員は社会的に弱者である地域住民の福祉向上に懸命になっている。高齢化社会を迎えた今、核家族化・独居老人・身障者・生活困窮者・児童虐待・認知症の把握等大変な任務を負わされている。高原町の民生委員等は月額一万三千円しかない。改選時地元の区長は、人選に大変である。難儀した割には報われないからである。また、農業委員も土地の幹旋や現地調査等地域にとって重要な任務を帯びている。月額会長五万四千円、委員三万二千五百円これでは、県内でも報酬は安いと思われる。民生委員・農業委員の報酬の見直しが必要と思われる。

(答) 民生委員・児童委員の報酬は民生委員法第一〇条で無報酬となっている。活動に要する旅費、研修費等は、町より補助金を交付している。農業委員は現在の報酬額が良いと考えているのではないが他の委員報酬も

あるので、見直しは大変難しい。民生委員・児童委員については、今後活動については検討する。



民生委員会の様子



農業委員による現地調査の様子

大腸がんの早期発見について

(問) 小林市・えびの市民の四〇歳以上の方は大腸がんの早期発見につながる問診、潜血便の検査費用が、一千円で済むのに、高原町民は自費診療約四千円となっている。大腸がんの発生率は一番胃がん、二番肺がん、三番大腸がんの順位となっている。人なみということもあり実施して欲しい。

(答) 高原町は人間ドックを実施している。

(問) 人間ドックは、受診した総数の一八・六％しか高原町民はいない。

(答) 便潜血検査法による大腸がん検診を今年導入する。四〇歳・四五歳と五歳刻みで六〇歳までとなる。

(問) 五歳刻みでは町民二三％の受診率である。

(答) 来年度から四〇歳以上は全員対象として検討する。

高原町立小中学校の統廃合について



宮司 勲議員

(問) 高原町立小中学校適性化規模検討委員会が設置され、平成二十一年二月に当委員会から

平成二十五年度の統合を目標とする旨の答申がされた。答申は予め教育委員会から示された基本方針をほぼ踏まえた内容となっているが答申をどう受けとめどんな対応をできているのか。

(答) 答申の内容は適切であるとの結論に達しその施策を実施すべく、平成二十一年二月に教育委員長名により町長に報告をした。

(問) 統廃合は建設費に費用がかかるとの理由で統合はしないことを昨年十二月に決定したとの記事が、五月二十八日付の宮日新聞に掲載されたがその経過は。

(答) 平成二十五年度の統合は困難と判断したもので、掲載された記事は正確性を欠いている。

(問) 平成二十五年度の統合は財政的に困難と言うことであるが、校舎建設費五億八千万円のうち、町の負担はどの程度になるか。

(答) 二億円前後となる。

(問) 財政面的にはどうなるか。

(答) 財政調整基金や公共施設等整備基金の充たに加え義務教育債を借り入れた場合、将来負担比率等を精査する必要がある。

後川内小学校から高原中学校への区域外入学について

(問) 現在の入学状況は、又、区域外入学を認める要件は。

(答) 高原中学校への入学児童は、昨年度が三名、本年度が四

名の計七名となっている。又許可事項は四項目あり、現在の七名は全て区域外の学校しかない部活動を希望する事項に該当している。

(問) 部活動を止めた場合は。

(答) 区域内の学校(後川内中学校)に戻ってもらう。

新燃岳噴火の防災対策及び被害支援



中村 昇議員

(問) 火山予知連絡会は新燃岳が再び活性化する可能性もあるとして引き続き噴石や土石流の警戒を呼びかけている。皇子開拓の皆さんが無事に避難するためには、土石流の場合、橋の設置が有効な手立てである。安全な避難路の確保を。

(答) 橋を架けて一挙に直線で通せることの方が安全。国土交通省に陳情した。

(問) 迅速かつ確実に情報を伝達するために防災無線の屋外拡声器等の設置が必要では。

(答) 災害無線と連動した屋外スピーカーの設置を早急に検討し関係機関へ事業認可を要望する。

(問) ほほえみ館には五百人を

超す方々が避難した。入浴施設がなく職員用のシャワーを利用されたが大混雑した。職員用とは別のシャワー設置が必要では。

(答) 検討したい。

(問) 避難所になっている佐土公民館等の不燃化対策は。

(答) 熱風による危険性の高いところであり外壁の耐火を計画する。

(問) 降灰被害の農業支援で鹿児島県ではビニールハウスの張り替えを県単事業として二分の一補助をしているが本町でもこうした支援策が必要では。

(答) 八月の首長会に知事が来町予定であるので要望する。

〇三問題

(問) ゴミ収集について、祭日の日の収集がないので夏は臭くてこまるなどのご意見が寄せられている。小林市は祭日も収集している。本町でも取り組むべきでは。

(答) 新たな経費もあり、今後の課題である。

観光振興について

(問) JR高原駅舎のトイレは必要なトイレトパーパーが置いてない。高原町の玄関口でもある駅舎の公衆トイレが満足に使えない実態は「日本一美しい村連合」に加盟する町として嘆かわしい、改善を。

(答) 関係機関と協議し善処したい。

新燃岳噴火災害



前原 淳一 議員

(問) 避難勧告発令に対し過剰反応との報道があったが発令に至った経緯は。

(答) 避難勧告関係地域の区長、班長の避難やむなしとの一致を見て発令した。

(問) 牛の避難への支援は。

(答) 輸送費については車輛を借り上げ、支援したが餌代についてはしていない。

(問) 小学児童の登下校時の避難は全戸が受け入れる対策をするべきだ。

(答) 今後検討をしていく。

(問) 義援金の配分方法は。

(答) 配分委員会を設置し個人への配分、復興事業、産業部門への案がまとまっている。

(問) 降灰対策で国の補助事業の動力噴霧機販売の方法に業者やメーカーから苦情が殺到したと聞くが経緯は。

(答) 町職員が十三名、JAが二十四名、県職員が十名出席し農家への指導をした。

(問) 祓川地区は神楽殿が避難場所に指定されているが。

(答) 一時避難場所として設定している。

町立病院

(問) 待ち時間が長い、たらい廻しにされる等の風評について対策は。

(答) 院内の二カ所にご意見箱を設置している。処方箋の発行については改善の余地があればお願いしていく。

小中一貫教育

(問) 統廃合は財政面で断念されたが子供達の教育、あるいは未来をお金に換算して良いのか。

(答) 町の方針を教育委員会として理解を示した。小規模校の子供達に切磋琢磨する力や深く考え判断できる力を培うために小学校同士、中学校同士の交流を進めながら小中一貫教育を進める。

土木行政

(問) 町道敷きの草刈りは年二回は必要で、低木の伐採もするべきでは。

(答) 財政面から七月〜八月にかけて一回刈りとしている。低木については計画をしている。

(問) 町民に身近な排水、側溝の蓋等の要望の現況は。

(答) 区長を通じ要望がなされている。出来るものは早急に、時間のかかるものは理解を得ながら対応していく。



町道に覆いかぶさる草木

第4回定例会質疑

○報告第4号

平成二十二年高平原町一般会計予算繰越明許費繰越計算書について



清水 公雄 議員

(問) 事業実施されたもの、これからのものについて説明を。

(答) 総務費では、高平原町情報網基盤整備事業は完了している。地籍管理システム更新事業は六月から事業開始。

農業費では、農道整備の大迫大久保、宇都前地区、小手原地区は発注済、狭野地区のかんがい配水は六月を目途に発注。

土木費では、上平高原線は発注済、中入木四号線も発注済、総合整備の公園についても発注済。執行率は農業費が七十二・九%、土木費九十八%である。

教育費では、中学校防火シャッターは七月を目途に発注、高原町体育館分館の補修工事は発注済。

○報告第五号

平成二十一年度高平原町一般会計予算繰越明許費の事故繰越計算書について

清水 公雄 議員

(問) ケーブルテレビ工事の進

歩状況は。

(答) ほとんど完了している。

○議案第三十三号

国民健康保険税条例の一部を改正する条例

宮司 勸 議員

(問) 将来的に資産割合をどういう形で位置づける考えを持っているのか。

(答) 町部と周辺部との格差がある。二十三年度から二十四年度にかけて賦課割合の十%を八%に下げ、その分の二%を所得割で賦課している。二十四年度では五%くらいに資産割りを下げていく方向で検討中だ。

前原 淳一 議員

(問) 医療費について二十二年度が県内で高平原町は四番目と高いが対策は。

(答) 国民健康保険事業として生活習慣病予防のため軽易な運動を訪問して行う事も検討している。多重受診、頻回受診については保健師が対象世帯を訪問指導する。時間外受診など診療報酬が高くなるものは広報誌で啓発をしている。また特定健康診断については受診率向上とは別に四十歳未満についても何らかの方策を講じる必要がある。ジェネリック医薬品については周知啓蒙を行っていく。

○議案第三十五号

宮崎フリーウェイ工業団地固定資産税免除条例を廃止する条例

前原 淳一議員

(問) 完成間近のコムテックは当然免除となるのか。

(答) 誘致企業に対しては従来から別途優遇処置の条例がある。要件を満たせば課税免除になる。

○議案第三十七号

平成二十三年度高原町一般会計補正予算(第二号)

中村 昇議員

(問) 観光費のレストハウスの修繕費だが、レストハウスの採算的な事を考えれば観光協会は施設運営に重点を置いたほうがレストハウスの運営の安定化にもつながるのでは。

(答) 観光協会と協議をしながら内容について工夫するよう提案をしていく。



皇子原レストハウス

宮司 勲議員

(問) 道路橋梁費の高崎川土砂排除は本来国交省の事業だが国交省から道路確保の要望があつての土砂排除なのか。

(答) 土石流災害対策で地元からの要望に国交省が応える形で始まった事業だ。



下川原橋下流を眺む

(問) 町道として購入整備されるが、堤防の高さに沿って整備されるのか。

(答) 花堂橋上流から下川原橋までの一・二kmで幅員が四mで高さは現在よりも一m位上がり、後に町道としての管理になる。

(問) サイクリング道路等も含めた道路整備を。

(答) 管理等について今の段階では国交省と土木事務所協議中ということをお願いする。

温谷 文雄議員

(問) 学校管理費の工事請負費

千三十三万五千円の内訳は。

(答) 調理場の空調設備費で高原小学校が四百九十四万円、広原、狭野、後川内小学校がそれぞれ百六十三万四千円となる。

○議案第三十八号

工事請負契約について

清水 公雄議員

(問) ケーブル敷設工事費が減額になった理由は。

(答) N T T の柱の強度の関係で既設の高崎町までの B T V 都城ケーブルテレビの線にケーブルをかけさせてもらった結果数量がかなり少なくなった。

○承認第十一号

平成二十三年度高原町一般会計補正予算(第三号)

中村 昇議員

(問) 六月十日より二十二日までの総雨量は。

(答) 七・七四ミリです。

(問) 補正予算に計上された被害箇所は。

(答) 公共土木工事は、広原二一箇所・蒲牟田九箇所・西麓二箇所・後川内六箇所の計三十八箇所です。農業土木関係は、広原三箇所・蒲牟田二箇所・西麓一箇所・後川内四箇所の計十箇所です。

温谷 文雄議員

○議案第四十一号

平成二十三年度高原町一般会計補正予算(第四号)



北迫 泉議員

(問) 商品券配布事業交付金の商品券の額面は。

(答) 千円券二枚配布の予定とありますが五百円券も検討します。

中村 昇議員

(問) 新燃岳の降灰噴石の被害状況は。

(答) 車窓破損十六件、ソーラーパネル破損十五件、車庫屋根の破損一件、雑穀・イモ類の被害面積は十一・二ha、野菜七十二・三ha、果樹八・七ha、高原作物五十四・八ha、飼料作物九百二十五ha、柿・花は七・八ha、椎茸等千kgです。

(問) 義援金の配分検討委員会構成は。

(答) 商工会長・区長会長・社会福祉協議会副会長・農業委員会会長・地域婦人連絡協議会会長の五名です。

前原 淳一議員

(問) 全員協議会での各議員の意見は配分委員会に反映されたか。

(答) 六月二十七日の五回目の委員会報告した。

(問) 配分委員会の構成は余りにも少人数では。

(答) 委員の選出は各種団体と町内の産業部門から考慮し五名に決定した。

宮司 勲議員

(問) 配分委員会で検討された内容は、関係団体で協議されて関係課で調整されたのか。

(答) 各産業部門ごとに配分額を設定して、その額に基づき関係課の打ち合わせを行い関係団体と調整して協議した。

清水 公雄議員

(問) 新燃岳噴火災害復興祈念の復興の森の場所と面積は。

(答) 事業実施団体と協議して場所の選定を行う。

(問) 川平区分収林は継続して樹木を植えるのか。

(答) 立木伐採後は、森林管理所と協議をする。



(問) 観光振興復興対策での本町のPRはこの都市で行うのか。

(答) 東京・関西・名古屋・福岡を考えている。

温谷 文雄議員

(問) 高原町産品のPR方法は。

(答) 東京事務所・大阪事務所の流通担当者に相談します。

第4回 定例会審議結果

平成23年6月16日(木曜日)

議案番号	件名	結果
報告第3号	平成22年度高原町土地開発公社事業報告及び決算報告について	報告
報告第4号	平成22年度高原町一般会計予算繰越明許費繰越計算書について	報告
報告第5号	平成21年度高原町一般会計予算繰越明許費の事故繰越し繰越計算書について	報告
報告第6号	平成22年度高原町水道事業会計予算繰越計算書について	報告
承認第10号	専決処分について高原町税条例の一部を改正する条例	承認
議案第33号	国民健康保険税条例の一部を改正する条例	可決
議案第34号	高原町都市計画審議会条例の一部を改正する条例	可決
議案第35号	宮崎フリーウェイ工業団地固定資産税免除条例を廃止する条例	可決
議案第36号	議会運営委員会調査事項について	可決
議案第37号	平成23年度高原町一般会計補正予算（第2号）	可決
議案第38号	工事請負契約について	可決
請願第1号	知的障害者が安心して暮らせる入所施設の存続を求めるための請願書	継続審査

平成23年 第5回 臨時会

平成23年7月14日(木曜日)

議案番号	件名	結果
	高原町農業委員会委員の推薦について「赤井田 令子」氏	推薦
承認第11号	専決処分について平成23年度高原町一般会計補正予算（第3号）	承認
承認第12号	専決処分について高原町税条例の一部を改正する条例	承認
議案第39号	公用車交通事故による和解及び損害賠償の額を定めることについて	可決
議案第40号	分担金をと徴収すべき事業について	可決
議案第41号	平成23年度高原町一般会計補正予算（第4号）	可決
議案第42号	平成23年度高原町水道事業会計補正予算（第1号）	可決
請願第1号	知的障害者が安心して暮らせる入所施設の存続を求めるための請願書	採択
発議第5号	知的障害者が安心して暮らせる入所施設の存続を求める意見書（案）	可決
行政調査の件	総務経済常任委員会	継続調査
行政調査の件	文教厚生常任委員会	継続調査
調査事項について	議会運営委員会	継続調査

知的障害者授産施設 あさひの里

園長 益本忠男

TEL42-0200

あさひの里は平成4年4月より開園し、来年度で20周年を迎えます。当園は知的障害者の入所施設（50名定員）としてスタートしました。近年の福祉制度の変革に伴い、施設へ求められるものも多くなりました。それに呼応するように、当園では就労・地域生活移行の利用者のためのグループホームを平成12年、高原町に設立し（現在3棟）、15名の方が就労されています。

そして、より地域に必要とされる施設を目指して、平成13年より通所事業を開始（現在20名）。町内を始め、小林市・都城市の方達が利用されています。平成17年には小林市に分場（定員10名）を開所し、通所事業を展開しています。

あさひの里では、作業・生活訓練を中心としながら、利用者の皆さん一人ひとりに応じた支援を行っています。作業の中で作られた当園の野菜や、ハンディモップ、木炭などの自主製品は町内の各店舗のご協力のお陰で、地域の皆さんに多くお買い上げ頂いており、利用者の皆さんの励みになっております。

また、7月（盆踊り大会）と11月（あさひ祭り）には毎年祭りを開催しています。そこでは余暇の時間に習得した太鼓や踊りなど、輝く姿をステージで披露する利用者の皆さんと、温かい地域の皆さんとの直接のふれあいの場として、今後も一緒にお楽しみ頂きたいと思っております。そして、毎回たくさんのボランティアの皆さんにご協力を頂いてありますが、皆さん全員との関わりの中で、利用者の皆さんの笑顔をたくさん見ることが出来ます。深く感謝致しております。

これからも、スタッフ全員で利用者の皆さんの目標達成に向けての支援をしていきます。是非あさひの里の利用者の皆さんに逢いに来て下さい！



町委託作業

たかはる清流らんの草刈り・整備の様子



体育祭

5月は体育祭。みんな元気に競技や応援をして白熱します！



作業風景

写真は、(有)末山商会の下請け作業の様子。他、農事作業、炭・木工品作り、モップ、石けん作りなどの作業を行い、技術の習得や就労に必要な支援を行っています。



あさひ太鼓

あさひ太鼓は、あさひの里を代表する有志グループです。和太鼓にロックのギターの組み合わせで、活動も10年になりました。毎年、町内の祭りにも出演させて頂いています。

編集後記

『災害からの復興と 高原町の活性化』

私は、有志を集めて、高原町内で市を開催しようと計画を立てているところです。



町内の商店街の店は、もちろんのこと、高齢者や農家の作る農作物を中心に畜産物、海産物など町外からも出店してもらい、町内、町外から大勢の人に来場してもらいたい。高齢者には、自分の作った作物を売って収入を得ることで喜びと元気を持ってもらいたい。

また、得られた収入から子や孫にお小遣いを与えることもできるようなと思います。そうすることにより家族の絆が深まり、家の仕事に対しても子供たちの見方が変わってくるのではないのでしょうか。そのためには、定期的に市を開催し、一〇年、二〇年と続けたい。そうすることで、高原の町中に人が増え、活気も出てくると思います。活性化のためには、高齢者の力が不可欠であると強く思っています。

鹿嶋 重明